

[報告]

生化学検査高値を通知された献血者に対するアンケート調査

石川県赤十字血液センター

新田 誠, 長濱佐恵子, 国見由理, 由田美奈子, 本庄祐子,
北林廣三郎, 平井 肇, 円満字豊, 塩原信太郎A questionnaire survey on blood donor informed of
abnormal biochemical test results*Ishikawa Red Cross Blood Center*Makoto Nitta, Saeko Nagahama, Yuri Kunimi, Minako Yuda, Yuko Honjo,
Kozaburo Kitabayashi, Hajime Hirai, Yutaka Enmanji and Shintaro Shiohara

抄 録

石川県赤十字血液センターでは、グリコアルブミン(GA)検査の開始に伴い、生化学検査高値献血者に対して、葉書による検査サービス通知とは別送で、検査が高値であることを記した文書を封書により通知を行っている。今回、本通知を発送した163名の献血者に対してアンケート調査を行い、その意義について検討を行った。

アンケート調査の結果、「封書での通知が参考になった」と回答した方は94.8%であり、また、「今後も封書によるお知らせを続けた方がよい」と回答した方は86.2%であった。検査値については、標準値を超える検査項目があることを献血で初めて知った方は58.1%であった。さらに、医療機関を受診された方は55.2%であった。

封書により生化学検査高値の通知を受けたことについて、概ね好感が持たれていた。また、記述式の回答から封書通知が契機となり医療機関を受診する例が見られたことなどから、本通知が生活習慣病を含む疾病の予防およびその後の健康管理に役立っていることが視えた。

Key words: 生化学検査高値献血者, 封書通知, アンケート調査

はじめに

全国の赤十字血液センターでは、全献血者を対象として、生化学検査および血球計数検査の検査サービス通知(以下、ハガキ通知と略す)を行っている。通知では、検査高値を示した場合、医療機関への受診を勧めるマークが表示されている。しかしながら、検査高値者が、通知内容からその

検査結果を理解し、さらに医療機関を受診しているかは、疑問が持たれるところであった。

石川県赤十字血液センター(以下、石川センターと略す)では、グリコアルブミン(GA)検査の開始に伴い、平成21年6月より、①ALT(250IU/L \leq), ② γ -GTP(500IU/L \leq), ③GA%(24.0% \leq)の献血者に対し、通知とは別に、受診を勧める旨

を記載した文書を封書により通知(以下、封書通知と略す)を行ってきた。

今回、我々は封書通知を受けた献血者へのアンケート調査を行い、封書通知の意義について検討したので報告をする。

方 法

平成21年6月～平成23年1月の間に封書通知を発送した163名の献血者を対象として、封書通知についてのアンケート調査を行った。なお、期間中の通知項目と件数は、(表1)に示すとおりで、①ALT(250IU/L≦)8名、②γ-GTP(500IU/L≦)38名、③GA%(24.0%≦)119名であった(重複あり)。

アンケートの内容は、「生化学高値通知者に対するアンケート用紙」(図1)に示すとおりで、質

問内容は、①封書通知について確認、②検査高値についての確認、③医療機関への受診の確認を行うものであった。

アンケート用紙は、平成23年3月に対象献血者に発送し、同封した返信用封筒にて回収した。

結 果

アンケートの回収率は、41.1%(67/163)であ

表1 封書通知の通知項目と件数

| 通知項目 | | 件数 |
|--------|------------|-------------|
| ①ALT | (250IU/L≦) | 8名(0.02%) |
| ②γ-GTP | (500IU/L≦) | 38名(0.09%) |
| ③GA% | (24.0%≦) | 119名(0.29%) |

()内の%は期間中の献血実人数40,346名に対する割合を示す。

アンケート用紙

《検査通知についてのアンケートにご協力ください。》

【「はい」か「いいえ」を○で囲んで下さい】

1. 献血後、検査結果をお知らせする葉書とは別に、封書で検査結果をお知らせしたことはご存知ですか。

(はい ・ いいえ)

【次の質問は「はい」と答えられた方のみお答えください。】

・封書でのお知らせは参考になりましたか。

(はい ・ いいえ)

・今後も封書によるお知らせを続けた方がよいと思いますか。

(はい ・ いいえ)

(理由:)

2. あなたの検査結果の中で、標準値を大幅に超える検査項目があったことはご存知でしたか。

(はい ・ いいえ)

(次の質問は「はい」と答えられた方のみお答えください。)

・その検査結果が標準値を大幅に超えていることは、献血で始めて知りましたか。

(はい ・ いいえ)

3. 献血での検査結果を見て医療機関を受診されましたか。

(はい ・ いいえ)

【次の質問は「はい」と答えられた方のみ該当する箇所に○を付けてください。】

<複数回答可>

・病気であることが分かった。

・現在、治療中(投薬や食事・運動療法を含む)である。

・既に治療が終了し完治した。

・病気であることは分かったが、特に治療の必要はなく経過観察でよいと言われた。

・医療機関での検査結果は正常で、病気ではないと言われた。

・その他(具体的に記載してください)

()

4. その他、何かご意見があればお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

{ 返信用封筒に入れ、必ず、返送してください。 }

図1 生化学高値 封書通知者に対するアンケート用紙

った。①封書についての質問では、ハガキ通知とは別送の封書で検査高値をお知らせしたことを知っていたと回答した方は86.6% (58/67)であった。その内、封書でのお知らせが参考になった方は94.8% (55/58)であり、また、今後も封書によるお知らせを続けた方がよいとした方は、86.2% (50/58)であった (図2)。

②検査結果についての質問では、検査結果の中で標準値を大幅を超える検査項目があったことを知っていた方は、92.5% (62/67)であり、その内、標準値を超える検査項目があることを献血で初めて知った方は58.1% (36/62)であった (図3)。検査項目別には γ -GTP高値で通知の方は、38.9% (7/18)が献血で初めて高値を知ったと回答していたが、裏を返せば、過半数以上の方が、献血前に自身が γ -GTP高値であることを知っていたことを示していた。③医療機関への受診についての

質問では、献血での検査結果を見て医療機関を受診した方は55.2% (37/67)であった (図4)。受診者37名の内、23名は献血で初めて検査高値があることを知った方で、14名は以前から検査項目で高値があることを知っていた方であった。

受診後の状況についての質問(重複回答含む)では、病気であることが分かった方が16名、現在、治療中である方が21名、病気であることは分かったが、経過観察でよいと言われた方が8名、医療機関での検査結果は、正常で病気ではないと言われた方が2名であった (表2)。

治療中であると回答した21名の内17名の方は、GA高値で封書通知を行った方であったが、受診以降、継続的な治療が行われていることが判明した。また、経過観察もしくは正常であると回答した10名の内5名は、 γ -GTP高値で封書通知を行った方で、 γ -GTPが一過性の高値であったこと

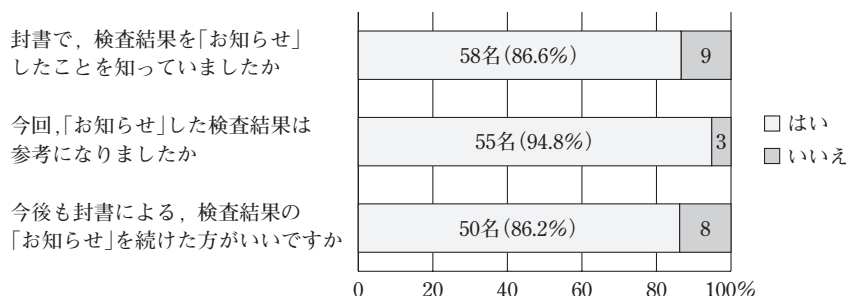


図2 アンケート結果(1)

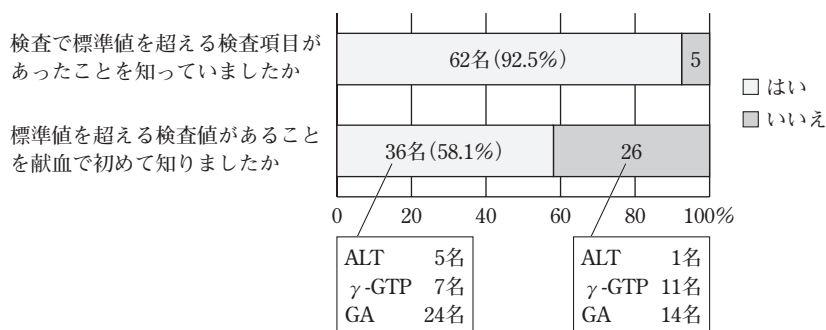


図3 アンケート結果(2)

が推測された。

記述式の意見では、封書通知が医療機関へ行くきっかけとなったと回答するケースや、健康管理に役立ったとの回答が見られ、封書通知について肯定的な内容の意見が多かった。しかし、一方では、既に検査の内容は理解しているので封書通知は不要との否定的な意見も寄せられていた（表3）。

考 察

今回のアンケート調査から、封書通知を受けたことについて、概ね好印象を持たれていた。

過半数の方が献血で初めて、生化学検査高値項目があることに気がついていることや、記述式による意見で、封書通知がきっかけとなって医療機関を受診したとの回答も多いことから、本通知が生活習慣病の予防および健康管理に役立っていることが窺えた。

また、ハガキ通知では、検査高値に気がついて

いないケースや検査高値の項目があることを認識したとしても、その後医療機関への受診などの具体的な行動に移ってもらえないケースがあることも判明した。

アンケート調査から、封書通知が献血者の健康管理に役立っていることが分かったが、現在、石川センターが行っている通知方法（システム外の対応）では、労力の問題から、通知できる件数に限りがあることも事実である。

感染症検査陽性通知のように統一システムで通知対象者を抽出し、検査値について通知文書の内容をシステム側で書き換えた「お知らせ文書」を作成するような封書通知のシステム化が望まれる。若しくは、より現実的な方法として、受診を勧める閾値の設定を見直した上、現行のハガキ通知で検査値を示すページに、閾値を超えた検査項目についての説明文を強調文字で別枠掲載する方法でも、検査高値の方への注意喚起が行えるものと考える。

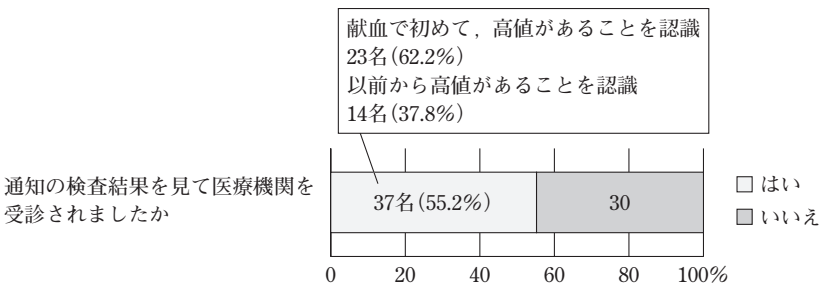


図 4 アンケート結果（3）

表 2 医療機関受診後の状況

医療機関を受診と回答した37名について（重複回答含む）

| 受診後の状況 | 通知項目 | | | 計 (重複あり) |
|--|------|--------|------|-------------|
| | ①ALT | ②γ-GTP | ③GA% | |
| ・病気であることが分かった。 | 2名 | 4名 | 10名 | 16名 |
| ・現在、治療中(投薬や食事・運動療法を含む)である。 | 1名 | 4名 | 17名 | 21名 |
| ・既に治療が終了し完治した。 | — | — | — | 該当なし |
| ・病気であることは分かったが、特に治療の必要はなく経過観察でよいと言われた。 | 1名 | 4名 | 3名 | 8名 |
| ・医療機関での検査結果は正常で、病気ではないと言われた。 | 1名 | 1名 | — | 2名 |

表 3 封書通知に対する意見(記述式)

| | |
|---|--------------|
| 肯定的な意見 | |
| 封書通知によって病院に行くきっかけになった。 | 通知項目 |
| 体調が悪くないと病院へ行く事もないので、検査結果を知らせてもらって早く治療できた。 | γ-GTP, GA |
| 以前から自覚はあったが目を背けていました。病院へ行こうと思いました。 | GA |
| 健康管理のために役立っている。 | GA |
| 医療機関に行く判断資料になると思う。 | GA |
| 本人が気がつかない場合があり、悪化の予防に繋がる。 | GA |
| 自分自身で運動と食事に注意をして、正常値になりました。 | GA |
| 特別な案内であることが判る。 | GA |
| 検査の異常値がわかりやすい。 | GA |
| 自分の体調に気をつけるようになる。 | γ-GTP |
| 否定的な意見 | |
| 人間ドッグを受診しているので、通知はあまり参考にしていません。 | 通知項目 |
| 検査数値は変わらない。十分承知している。 | GA |
| 葉書の内容で判るので通知は不要です。 | γ-GTP ALT |

通知文(例)

平成 年 月 日

様

石川県赤十字血液センター
所 長

拝啓

秋涼の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
また、過日は献血にご協力くださいまして誠に有難うございます。
さて、平成 年 月 日 に献血いただきました貴方の血液について検査しましたところ、
下記のとおり、一部の検査結果が通常より高い値を示しました。
この検査数値が通常より高い値を示したからといって、直ちに病気との関連があるという
わけではありませんが、一度、専門の医師による受診をお勧めいたします。
この件に関しまして、ご質問等がございましたら担当者までお問い合わせください。
なお、今後とも血液事業に対しまして、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

| | | | | | | | |
|-----------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 献 血 日 | ALT | γ-GTP | TP | ALB | A/G | CHOL | GA |
| 平成23年9月6日 | (IU/L) | (IU/L) | (g/dL) | (g/dL) | | (mg/dL) | (%) |
| 検査結果 | | | | | | | |
| 血液センター標準値 | 5~45 | 10~65 | 6.5~8.2 | 3.9~5.0 | 1.2~2.0 | 110~250 | 16.5未満 |

担当：【☒】

図 5 通知文書(例)